《続・桜尾城と妙見社》

先々月号で桜尾城跡北面の妙見社が建立された経緯を考察してみたが、大内氏との関係時代に勘請されたと思われる記述で筆不足だったのを補足します。

明徳二年（一三九二）十二月、大内義弘は明徳の乱の軍功で幕府より和泉・紀伊両国守護職を与えられ、翌年正月「当国（泉州）中妙見を可勘請申候、二月会過候者早々可有御上候」と氏神妙見社を畿内にまで進出させようとしている。

又、義弘は応永元年（一三九四）安芸国東西条の福成寺別当職を氷上山別当に預けており、福成寺は大内氏の氏寺氷上山興隆寺の末寺となっている。

東西条の地は大内氏領国内の諸郡と並んで氷上山妙見社の大祭である修二月会の費用を廻り持ちする脇頭となっており、大内氏は新所領地に積極的に氏神・氏寺を勘請しょうとしていたことがわかる。東広島市の鏡山城は大内氏の安芸国における拠点であった。

これらの地方より古くから大内氏との深い関わりがあった厳島神主家の居城、桜尾城に妙見社が大内氏との関係時代に勘請された可能性は大きいものと思われる。

［引用文献・地域社会と宗教の史的研究］

〈遠下記〉